

NP再考3—共同ファシリテーター

文責 神村富美子

ファシリテーター研修の一日目の最後のほうに、「共同ファシリテーター」を学ぶ時間があります。おそらく皆様お疲れの時間帯。どのくらい覚えていらっしゃるでしょうか？

共同ファシリテーターを成功させるためのコツ（親教育プログラムすすめ方 p.35）

- お互いによく話し合う
- お互いに率直であること
- お互いから学ぶこと
- チームワークを大切に

などさまざまなポイントがありますが、言うは易し、行うは難しです。

同じ講座を受けて初心者同士で、気の合う人と組む場合、上記のことはできやすいかもしれませんが。

しかしながら、ファシリテーターの状況によっては共同の相手を選べない場合もあるでしょう。

- ファシリテーターとしての経験度が違う
- 研修を受けたトレーナーが違う
- 研修を受けた養成機関が違う

そんな場合は、どんなことに留意したらいいのでしょうか？

1. ファシリテーターとしての経験が違うペア

まず、新人ファシリテーターとベテランファシリテーターが組む場合を考えてみましょう。

新人ファシリテーターの強みは最近、研修を受けた点です。知識が新しく、記憶もはっきりしています。初めてだからと遠慮せず、自信をもってパートナーと話し合みましょう。

そして気をつけることは依存的にならないことです。共同ファシリテーターは経験年数に関わらず、参加者に対して等しく責任があります。「第4回目のセッションはベテランファシリテーターが計画したから私には責任がない。」などという言い分は参加者には通じません。プロとして共同で行う以上、プログラムの責任はふたり同等にあるのです。

では、ベテランファシリテーターの強みはなんでしょう？もちろん、経験です。参加者の力、グループの力を実感できていれば、安心して参加者に任せ、必要に応じて適切に介入することができるでしょう。

ただ参加者はいつも異なります。同じNPは2度とありません。フレッシュな気持ちで取り組むことが必要です。そして新人ファシリテーターの考えをよく聞いてください。初めに「たまたま経験しているけど、今度の参加者に会うのは初めてで、それはあなたと同じです。思ったことを遠慮せず、フランクに話し合みましょう。」と提案してください。

もしやりにくさを感じたら、お互いがお互いから学び合い、人間として成長するチャンスだと思って、フランクに話し合ってみてください。ベテランと新人の組み合わせがうまくいくかどうかは、ベテランの方の謙虚さによるところが大きいのではないかと思います。

2. 研修を受けたトレーナーが違うペア

研修を受ける側からすると、まったく同一の内容のほうが、共同するにあたってやりやすいかもしれません。CCCとしてもなるべく、同一とまでいかななくても、同質の研修をお届けしたいと思い、トレーナーの勉強会などを行っております。

しかしながら実際には早期に受講された方と最近受けた方など、多少違っていることがあるのも事実です。しっかり確認されたい方は、毎年行われているフォーラムに出席されるか、地元でトレーナーを招いて、フォローアップ講座を開催するなどの方法があります。(詳しくはCCCにお問い合わせください。)

まずは早急に統一見解を図りたいこととして、NPを行う人はファシリテーターであって、ディレクターではないということです。ゲームを次々にさせるのは、ファシリテーターではありません。なぜなら「させている」のですから。ファシリテーターはさせる人ではなく、引き出す人です。そしてNPの目的は、体験学習サイクルを用いて問題を解決する方法を身につけること、自分や他人の価値観に気づくことです(親教育のすすめ方 p.24~28 基本的な考え方)。参加者が自分の価値観に気づき、それが日常生活にどう影響しているのかに気づき、体験学習サイクルを身につけるための時間をしっかり確保しましょう。

またNPでは参加者なるべく、たくさん話し合えるように小グループ(4人程度)で話し合える時間をしっかりとります。この2点で違う方法を学んだ方は、できるだけ修正をお願いいたします。

3. 研修を受けた養成機関が違うペア

KKIは同じテキストを用いますが、KKIのほうが細かく規定されています。またアイスブレイカーのあとに一人一言を行うなど、順序に多少違う点があります。認定審査を受けられる場合には、所属の養成機関の方式にのっとった施行をなさってください。KRCの場合には、テキストが分冊であること、そのため参加者全員に配布できていない、などということが違いとしてあるようです。皆さんが行う場合は、親用のテキストを全員が手元に持てるようにしてください。

また、認定審査を受ける方は、研修で学んだことができているかどうか、ご検討のうえ申請してください。

どんな組み合わせでも、共同ファシリテーターとしてやりにくさを感じる場合は、そのこと自体をフランクに話し合えるならば、解決の道筋がみえてくるかもしれません。